

松沢成文 神奈川県知事との対談

－ 福祉的就労の底上げと森づくり （抜粋） －

進和学園の営業窓口会社（株）研進が、障害者雇用促進法に基づく「在宅就業支援団体」（神奈川県第1号）の登録を受けた際に、（株）研進・進和学園より松沢成文 神奈川県知事（当時）を訪問し、その旨報告申し上げた際の知事との対談記録からの抜粋です。後半、「いのちの森づくり」についても、知事より貴重なメッセージを賜りました。

- ・ 日 時 : 2008年5月19日（月） 14:35～14:55
- ・ 場 所 : 神奈川県庁 知事室

（前半省略）

研進・学園：福祉からの取り組みは十分とは言えません。知的障害者を中心とする雇用型の福祉工場は、神奈川では横浜のダイア礫子さんと私共の2つしかありません。いきなり雇用型は難しいので、「福祉的就労」の底上げが重要となります。進和学園でも、ホンダ車部品の他、製パン・クッキー、しいたけ、陶芸、竹炭などの作業を通じて工賃アップに取り組んでいます。「いのちの森づくり」もその一環です。

松沢知事：「いのちの森づくり」のお話を聞いて、これも素晴らしいなと思ったんです。平成22年度に全国植樹祭を神奈川で開催します。全国で最後になってしまったんですが、実は、終戦直後、仙石原で天皇皇后両陛下をお迎えして記念植樹をやったんです。それが注目されて、毎年植樹をしようと全国植樹祭が始まった訳です。神奈川がきっかけを作ったんですね。

研進・学園：全国植樹祭では、有難いことに県の環境農政部さんより、県下の障害者の方々栽培した苗を2000本ほど優先発注して頂けるとのお話を伺っています。

松沢知事：それは良い。今度の植樹祭では、緑を増やすための一過性のイベントではなく、多くの県民の皆さんに参加して頂いて、継続する取り組みにして行きたい。障害者の皆さんが「どんぐり」から育てた苗を植えさせて頂く。子供さん、小学生にも参加して頂く。苗作りから県民の皆さんに参加して頂く。障害をお持ちの方やお子さんが、愛情を込めて育てた手作りの苗というのが良いですね。

研進・学園：「どんぐり」から苗を育てるとするのは、情操面の充実という面でも有意義だと思っています。

松沢知事：植えた木を5年後、10年後に見に行くのも良いですね。木もどんどん大きくなって行くし、人間も一緒に成長しますからね。これも楽しみですね。

研進・学園：宮脇先生が指導されている森づくりもそういうことだと思います。「森づくり」は「人づくり」に繋がるということかと思います。

松沢知事：今、県では「成長の森」という事業もやっているんですよ。子供さんが生まれたら県に寄付をして頂いて、その寄付金で買った苗を植えます。名前を記したプレートが貼ってあるんです。子供さんが5才、10才になったらその森へ来て、あの時植えた木がどうなったか、木と子供さんの成長を重ねて見て頂きたいですね。

研進・学園：「かながわ森林再生50年構想」について、昨年マニフェスト県民討論フォーラムで提言させて頂きましたが、広葉樹の植樹本数を増やして頂き有難く思っ

います。

松沢知事 : 林道の近くは林業のためにスギやヒノキを植えますが、県の自然環境保全センターで花粉が出ないスギやヒノキを開発しているんですよ。そうすれば、花粉症も防げる訳です。林道の近く以外は、広葉樹を植えて混交林にして行きます。経済林を自然林に戻して行くという運動で、広葉樹を増やして行きます。全国植樹祭では、皆さんの取り組みが天皇皇后両陛下に伝えられると良いですね。こういう発想で、障害者の方が苗を育てるプロジェクトをやっているということは、両陛下も喜ばれると思いますよ。

(以下 省略)

